

田ノ口小学校

「本気 根気 元気」

校長 濱田 俊二

◆はじめに

本年度は新入生3名を迎え、全校児童31名、教職員7人の3学級編成(1・2年生8名、3・4年生9名、5・6年生14名での完全複式)で教育活動を進めています。

昨年度より学校教育目標をわかりやすく、「本気 根気 元気」を主体的に行動し、根気強く続け、元気で優しい児童の育成」とし、「知」「徳」「体」を中心として子どもたちの成長を支援すべく取り組んでいます。

◆学力向上に向けての取組

研究主題を「主体的・対話的に学びあう児童の育成」とし、算数科を通して取り組むこととしています。今年度重点的に取り組むことは以下の4点です。

- ノート指導
- 復習予習の位置付け(高学年)
- チャレンジ授業の実施
- 週3日の放課後学習での基礎学力定着を図る

本校の特徴は、チャレンジ授業と放課後学習です。

チャレンジ授業とは、校内研修の一つで、教科書の指導を超えた内容を扱い、子どもたちが主体的に考え、議論し合う授業です。指導者は、算数の授業の最後や単元の途中に授業を仕組んでいきます。普段見慣れない問題や身近なところから問題が出されることもあり

ます。子どもたちは、悩みながらも何とかしようと考え、話し合います。「ああでもない、こうでもない」と考えが対立することもありますが、教員も授業を参観しながら、子どもたちの問題を考えたいきます。そして、授業後は甘口・中辛・辛口の研究協議です。このチャレンジ授業になつてから、協議がとても充実してきま

した。問題を考えるのが楽しくなつてきた教員もいます。もう一つは、放課後学習です。月・火・木の週3日放課後の30分間を使つて行つています。変わつてい



放課後学習

点、まず自分の教室を離れて行つというところ。図書室、分割教室、職員室前廊下、校長室です。そして、もう一つ変わつてい

点は、担任は指導しないと

いう点です。放課後学習は、支援員、校務員、養護教諭、校長に任せてもらつていま

す。担任はこの時間に明日の授業の準備をすることとなつていきます。また、子どもたち一人ひとりに問題集を配布しています。これは、PTA予算から出していただいています。7名という職員数ですが、チーム田ノ口として、子どもたちの学力向上に向けて取り組んでいます。

結果はすぐ出るものではないかもしれませんが、根気強くこつこつと続けていきたいと思つています。

◆読書生活と読まつり

「いつでもどこでも読書生活」をモットーに、読書活動を進めています。学校図書館を中心に、廊下にも

図書書を並べ、新刊などを紹介しています。毎年選書会を開き、子どもたちのお気に入りの本を購入していま

す。昨年度からチャレンジ

読書手帳を作り、難しい本にも挑戦してもらつていま

す。毎週水曜日には、3名の読書ボランティアの方々が読み聞かせに来てくださ

います。どの学年も本を読んでもらうのが大好き。夢中になつてお話を聞いていま

す。本好きの子どもたちが増えてくれることを期待しています。その一環として



昨年度より「読まつり読書まつり」を行つています。本校は上林町の母校です。

◆ふるさと・キャリア教育

黒潮町ではふるさと・キャリア教育をすすめていま

す。本校では、一昨年度より5・6年生が参加して「サーフィン教室」、昨年度より4年生が「ホエールウォッチング」を行つていま

す。これまで、見るだけだったサーフィンを体験すること

「ホエールウォッチングに行かせてください」と、校長室に交渉にきました。ネットでも調べることはできるのですが、自然の中のクジラを感じてほしいもので

◆田ノ口ディズニールランド

学校が楽しいところであつてほしい、そんな願いから田ノ口ディズニールランドコーナーを設置しています。学校で楽しかったことをど

んどん紙に書いて貼つていくのです。「みんなが学校に來られてよかった」「みんなでおにごつこができて楽しかった」「一輪車でバックができるようになってうれ



語の授業が楽しかった」などのメッセージを壁に貼つていきます。一学期分はいつぱいになりましたので、また新たに二学期分がスタートです。田ノ口ディズニールランドがまた楽しい出来事ではいいなることを期待しています。

かった」「英語の授業が楽しかった」などのメッセージを壁に貼つていきます。一学期分はいつぱいになりましたので、また新たに二学期分がスタートです。田ノ口ディズニールランドがまた楽しい出来事ではいいなることを期待しています。

佐賀中学校

『人間を大事に』

『自他ともに大切にしよう』

『こころがけ』

校長 宮崎 宏治

◆はじめに

本年度は校区の拳ノ川小より1名、伊与喜小より2名、佐賀小より13名、計16名の新入生を迎え、全校生徒55名、教職員15名(学習支援員を含む)で2020年度の教育活動がスタートしました。

本校では「人間を大事に」を学校教育目標として、人権・同和教育を基本に据え、いじめや差別を許さない、人としての生き方を大事にし、ながら、日々の授業や部活動、さらに生徒会活動や学校行事に取り組んでいきます。

しかし、4月7日の新学期から4日後には新型コロナウイルスナウシルス感染症拡大防止の観点より、約1カ月間臨時休校を余儀なくされました。5月11日から学校が再開されましたが、1学期や夏休みに予定されていた学校行事や部活動の大会、コ

ンクールなどは、ほとんどが中止または延期、規模の縮小となりました。3年生にとってはどれも最後の行事や大会となるはずでしたので、とても残念でありませんが、これから先、もっと大変なことや困難なことに直面するかもしれません。

仲間と協力して主体的に解決したり、新たな解決策を創造する力を身に付けられるように取り組んでいきます。

◆重点的取組

今年度より、県教育委員会より2年間の指定を受け、隣接する佐賀小学校と連携し「中山間地域における特色ある学校づくり推進事業」に取り組んでいます。具体的には、

- ① 学校運営協議会制度を活用し、特色ある学校づくりの推進
- ② 生活科・総合的な学習の時間を柱とした9年間のカリキュラムの作成及び実施
- ③ 小中連携による特色ある教育課程の編成及び実施
- ④ 小中連携した授業改善による、学力の定着と向上に向けた取組の推進

の4点になります。この取組によって、一人ひとりの生徒が「よりよく生きる」ための学びや意欲、学力向上を目指しています。

◆防災・人権教育

3年前から、生徒会活動の一環として「防災委員会」を設置し、地域の屋内避難訓練や保護者・小学校との合同避難訓練など、さまざまな防災に関する取組を生徒が中心となつて行っています。昨年度は次の



5点の取組が評価され、「ぼうさい甲子園」で中学校最高順位である「ぼうさい大賞」を受賞しました。

- ① 日本一「短い」防災活動・地域の高齢者宅に訪問し、寝室や居間から玄関先もしくは2階まで避難する「屋内避難訓練」の実施
- ② 日本一「長い」防災活動・一次避難場所から二次避難場所(伊与喜小)まで、約4・5キロの山道を歩いて避難する訓練を実施
- ③ 日本一「近い」防災活動

沿岸部から中山間部までの全地区の要配慮者を個別訪問し、防災に関する聞き取り学習の実施

- ④ 日本一「遠い」防災活動・太平洋を挟んだメキシコ合衆国シワタネホ市のエヴァ・サマノ中学校と合同で、遠地津波に対する避難訓練の実施(交流は、今年度で4年目になります。)
- ⑤ 日本一「新しい」防災活動・「臨時情報」についての解説ビデオを防災委員会で作成し、新しい災害情報を、中学生の視点でわかりやすく解説したものを地域の方々に発信

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全校生徒による高齢者宅への訪問は実施できていませんが、今後も中学生としてできることは何なのか考えさせ、実践につなげていきます。

さまざまな防災の取組を実践することで、生徒たちは地域の人の思いに触れ、頼られている自分に気付くきっかけともなっています。特に3年生は、3年間の総合的な学習の時間を通して、防災や人権などさまざまな視点から佐賀の安心・安全について考えてきました。これから

て、防災や人権などさまざまな視点から佐賀の安心・安全について考えてきました。これから先、SAGA || Saver (救済)・Assistance (救助)・Goodwill (親切)・思いやり)・Action (行動)について、具体的に実践することで防災・人権学習をさらに深めていきます。



◆人と人との間を大事に

本校では月に2回、ボランティアの方が読み聞かせに来てくれています。読み終えた後にいろいろな話をしますが、その中で「人間を大事に」というのは「人と人との間を大事にする」という意味もあるよね」と言われました。

このコロナ禍でも、生徒たちは何事にも懸命に頑張りを発揮し、確実に成長しています。今後も家庭・地域とのつながりを大事にし、ながら、この佐賀地域を担っていく子どもたちを支え、育てていきたいと考えています。